

竹島漁業権行使の経過

昭29. 4. 22

鳥根県水産部漁政課井川技師より当時久見漁業
 協同組合長であった服田敏に電話があり、
 4. 5日以内の是非面談したいことがあるので
 其の時は久見漁協に居てほしい。来訪の時期
 は追って連絡すると
 用件を^尋ねたが詳細は面談の上のこと

昭29. 4. 25

漁政課井川技師より4月27日午後久見漁協へ
 伺うのでよろしく頼むと電話があり

昭29. 4. 27

井川技師漁協へ来られる 2人だけで話をす
 用件

竹島に対して共同漁業権の免許を出しているか
 漁業権行使の実績がないので県が全面的に
 協力をするので久見漁協として漁業権行使の
 和布刈りを実施してほしい

その為の漁業者10名と漁船3隻が必要である
 竹島への往復には県の漁業取締船島風を
 使用するか護衛のため第八管区保安本部
 から巡視船5隻の派遣があるので危険は
 先づないと思う。

出発は5月1日 帰還は5月3日の予定であるので
 協力してほしい。

これに対して全面的に協力を約束する。
 但し竹島へ行くことはついでに秘密のうち
 行いたくないので、家の人には誰れにも話さない

出発するようになり、敵軍に言ひ渡された。
理由を訊ねたら国内各地には韓国人も可成り
住んでおり、この人達に知れれば韓国への通報の
恐れもあり、危険に伴うので、この事については
敵軍に守って貰いたいと申され、その外細部の
打合せをして井川技師は帰られた。
重大な事であるので、理事であつた佃忠親氏に
夜明けになつて漁船へ来て貰ひ、事の次第を
話して早速10名の人送を行つた。

昭29 4.28 4.29
佃氏と2人で10名の人と個別に会つて
承諾を得る

昭29 4.30
出漁者10名寄つて相談し、鰹風の積込み
漁船の手配をする、成るべく小さい舟を選ぶ
出漁者以外の船もあるが本人の了解を求め
るとできず、無断で借りることにする。
漁具は夫々各自で用意する。

昭29 5.1
今日はいよいよ竹島へ出発の日
万が一の場合も考慮し、責任問題もあるので
伊勢命神社宮司ハ幡克明さんには事のいきさつを
詳細に話して5月3日に帰る予定であるが、天候の
関係もあるので5月4日もし帰らぬ場合には
よろしく手配をとお願ひしておいた。

正午前、鰹風、久見港に入港
巡視船「おき」が1隻、久見港外、立島沖で待機
昼過ぎまでの漁船3隻と各自の漁具を鰹風
に積込みを終り、午後2時頃全員11名も乗船し
久見港を出航する
他の巡視船と合流するため、鰹前、別存湾に向かう
3時半過ぎに別存湾に入港する
既に「おき」外巡視船5隻も集結しており
心強く思う。

巡視船名

おき、くすりや、ふから、みうら、へくら

天候が悪くなり、竹島への出航は見合わせ
との連絡が入る。

昭29 5.2
今日も出航の命令がでない。
1日中何事もない、巡視船5隻は時折
放水訓練を行っている。佃忠親氏。
私(脇田)にだけは上陸を許可されタバコその他
買物をする。
夕食後、各船の責任者会議が「おき」で行われ
赤灘口まで波の状況を見に行き、ことになり
鰹前の様子の詳しい佃忠親氏に行つて
貰う。
何とか出航できそうに別存湾を出航口が
夜中と重なりつつある。

昭 29 5 3

朝起きて見たり 錫風は一路竹島へ向って
航行しており、近くには巡視船 おき⁷が
錫風と速力を合わせて付添っている。

他の巡視船 4隻は韓国の方へ向って遠く
彼方の扇状の展開して 真の様に見えている。
10時頃竹島へ到着 東島、西島の間に
錨を下す

巡視船 おきは 島の外側でレーダーをまわしながら
監視に当たっている。

早速操業開始の準備

おきの艦長より 赤旗を掲げて サイレンを鳴ら
したら 錫風には 帰らな 巡視船 おきに 帰
つて来い。君達の生命は必ず守ってやる。と
言われ 全員一瞬 シェンと 下りたが 舟 3隻
に分乗し 夫々の地真へ向って 操業を開始
した。

3隻の舟は 刈りた和布は 私と井川技師と
機関士と 3人で 錫風まで 運搬した。

昼過ぎ頃 天候が下り 気味しい 引揚げの命令
が出る。 11名の者は せめて 夕方までには
操業したかった。

2時過ぎ頃 竹島を 出発して 一路 帰途へ
途中 おきは 舞鶴へ 吾々は 隠岐へ 帰るため
サイレンを鳴らしながら 別れを惜しんだ。

昭 29 5 4

波が次第に高くなってきた。 錫風は午後
福浦湾内に入り 和布を 海に揚げて
そのまゝ 船へ向って 出航した。

吾々は 明け方 和布を 海に乾かして 夕方に
夫々 家へ 帰る。

私に 帰る 途中 横枕で 村民運動会を終えて
帰らぬ 奥川村長に出会う。

1日 帰りが 遅くなったので 八幡宮司から 様子
聞いて ~~おき~~ 心配されて 知られたが 無事 帰還

したことを 告げ、 無断で 出漁 した事
をおかしく 申上げらる。

竹島出漁者名簿

船田 敏 佃忠親 八幡才太郎

前田達太郎 佃祥二郎 洪田政三郎

河原春夫 古吉保夫 梅原秀造

八幡尚義 池田素善

島根県竹島の新研究

田村清三郎 著

(和江市沼乃木町 133)

S40.11.3 発行

(株) 報光社 平田市平田町 993